

これからはじめる防災対策・7
～南海トラフ地震の津波について～

●11月5日は世界津波の日

11月5日は『世界津波の日』と『津波防災の日』です。
その由来は『稲むらの火』という逸話にあります。

稲むらの火とは、
安政元年11月5日、南海地震によって起きた大津波が襲ってきたとき、
紀伊国広村（現在の和歌山県有田郡広川町）に住む濱口梧陵が
収穫したばかりの稲むらに火を放って、逃げ遅れた村人を高台に導き、
多くの命を救ったという出来事をもとにしています。

かつては国語教科書や『まんが日本昔ばなし』でも描かれ、
近年では小学道徳副読本にも採用されたお話なので、
覚えている方もいらっしゃるでしょう。

●南海トラフ地震を知ろう

安政の南海地震は、『南海トラフ地震』と呼ばれる地震の1つです。
ニュースでもよく取り上げられる南海トラフ地震とは、
静岡県沖から九州東方沖まで続く
海底にあるトラフと呼ばれる溝を震源域とする巨大地震のことで、
東海地震・東南海地震・南海地震の3つの地震が連動して発生します。

なかでも最も注意すべき地震が、
駿河湾から静岡県の内陸部を震源域とする『東海地震』です。

100年～150年の周期で繰り返し発生する南海トラフ地震の中で、
160年以上も発生してないため、
いつ起こってもおかしくないといわれています。
（東南海地震や南海地震は1944年と1946年に発生）。

●地震後は、すぐに高台へ！

南海トラフ地震の大きな特徴は、強い揺れが広い範囲で起きることと、
巨大な津波が数分という極めて短い時間で陸地に到達することです。

震源域が陸地に近いため、
東日本大震災のときとは違い、時間的な猶予がありません。
地震が発生したら、
津波の浸水が予想される地域では、すぐに高台へ逃げる必要があります。

浸水予想区域に住んでいない人も、
海岸近くに行くときは津波避難場所など逃げる場所を確認しておきましょう。

●自発的な避難訓練の導入

東日本大震災では、岩手県釜石市の小・中学生は教師の指示を受けずに、
自らが危険を判断し、避難行動をとりました。
このような子どもたちの行動を見て、
地域の人々の中にも一緒に避難をして助かる人がみられました。

ご家庭では、子どもたちに、家族を心配して家に戻らないことや、
家族はそれぞれ逃げることを信じて行動することを教えてください。
また学校においては、教師が誘導しなくても子どもたちが避難する訓練も、
ぜひ、導入してください。

(来週以降ご勤務先へお届けする、教職員共済だより 164 号で
簡単な手順を紹介しています)

家庭でも、学校でも、
子どもたちの自発的に行動する態度を育むことが大切です。

(一財) 防災教育推進協会 笠間 正弘